

1 経緯・目的

- ▶ 地域ブランディング論について(担当:国際文化交流学部・朝倉由希准教授)
地域資源(ヒト・モノ・コトなど)を活用し、地域で生産される財やサービスの付加価値を高める地域ブランド化の意義やノウハウについて学ぶ。
- ▶ 授業の前半では、地域ブランディングの基礎知識等について学習し、後半では、「未来型図書館」を題材に小松市の場所や資源等をどのようにブランディングできるかについて、履修生36名が約1か月間にわたり調査・研究を実施。
- ▶ 発表会概要
【日時】令和4年7月28日(木)8時45分~10時15分【場所】こまつ芸術劇場うらら【次第】開会挨拶▶発表▶講評



3 講評(市長・教育長)

- ▶ 提案について、**市民ワークショップなどの機会を通じて、これからどのように実現していけるか一緒に考えていきたい**
- ▶ **地域の様々な資源(ヒト・モノ・コトなど)と図書館がどのようにつながっているのかを理解することは、未来型図書館の想像を豊かにする大事な視点**
- ▶ 小松市や新しい図書館への深い愛情があって、知識だけでなく図書館づくりの基盤になる思いが詰まっていた



発表の様子

2 発表内容(全6班)

朝倉准教授コメント

- ✓ 多様な人(高齢者や障がいのある方、親子など)への着目があり、インクルーシブにデザインしていくという視点を今後も大事にしてほしい
- ✓ ロボットなどの活用による利便性とコミュニケーションの大切さなど、「科学・テクノロジー」と「感性」の両立について考えられていた
- ✓ 教育にとどまらず、産業や食育、観光、居場所づくりなど、国際文化交流学部として考えるべき多様な視点が含まれる提案となっていた



1班 小松市の未来型図書館

- コンセプトの設定
3C(civil(市民のための)・comfortable(快適に過ごせる空間)・convenient(あらゆる人に便利な図書館))
- 図書館におけるユニバーサルデザイン
多目的トイレ、点字ブロック、地下駐車場、多言語表記、筆談器等の設置、広いスペースの確保など
- 多機能を搭載したロボットの導入
音声機能・手話・多言語機能・チャット機能等の搭載、人間のサポート的な役割として活用
- デジタル化の推進
例)カーリルタッチ機能の活用(小松市用のマーク作成、音声読み上げ機能)
例)小松市図書館アプリの作成→yomossa(よもっさ)(記事の閲覧、スタンプカード、本の購入、利用カード機能など)
- カラーユニバーサルデザインの配慮

視点
やさしい
施設



4班 SHARE CHAIR

- 椅子を通して図書館に対し、この空間を共有したい、座りに来たいと思ってほしい
市民の憩いの場としての図書館づくりを目指したい
- 椅子に着目した3つの理由
1) 実行のしやすさ・変化の起こしやすさ 2) 人や用途に合わせたい 3) 座ることの身体影響を考慮
▶ 7つの分類に分けて検討
① **高齢者**: 身体障害者: 身体を支え、動きの負担を減らしたい
② **こども**: 図書館を楽しい場所だと思ってほしい
③ **休みたい人**: 図書館で寝たい、足をのばして座りたい
④ **姿勢がよくなる椅子**: 勉強や長時間座りたい人のために
⑤ **アートな椅子**: 芸術や伝統工芸・技術を感じられる場所にしたい
⑥ **季節の椅子**: 期間限定のイスで季節を楽しむ
⑦ **1人空間をつくれる椅子**: プライベート空間をつくり落ち着ける空間を

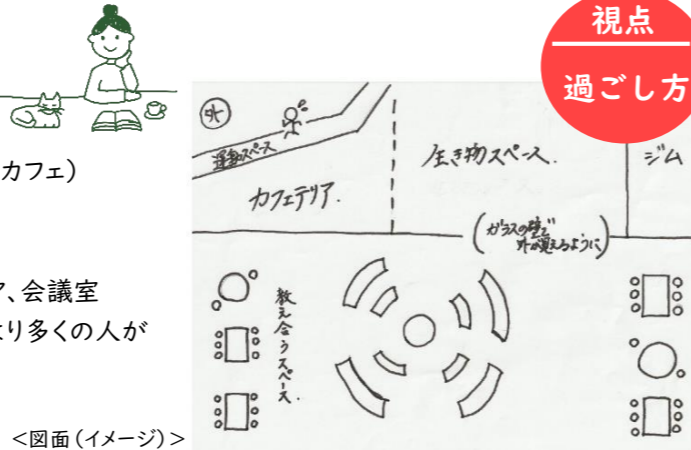
視点
館内の使い
やすさ



2班 図書館の森

- 図書館の森: 多様な人が様々な利用の仕方ができるイメージ
- 図面を描いてゾーン分け
【1階】運動スペース、カフェエリア、生き物ふれあいエリア(ネコカフェ)
ジムエリア、複数人で教え合えるスペース
→各エリアで話声が聞こえる、くつろげる空間
【2階】静かで落ち着きのあるエリア、勉強・読書用の個室エリア、会議室
- あらゆるニーズに対応して普段図書館に行かないような人も、より多くの人が訪れたいような施設をつくり、開放的な空間を目指す

視点
過ごし方



<図面(イメージ)>

5班 町のみんが使いやすい図書館

- 「本の貸し借り」と「交通手段」の2つの面から検討
本の貸し借りについて
<課題>本の貸し借り: 返しに行くのが億劫・時間がない
<解決策>(ハード) 本を返す場所を各所につくる(スーパー、コンビニ、公民館など)、ドライブスルー導入など
(ソフト) インターネットでの本の貸し借り、ドラゴンフライ(ドローン)の活用など
交通手段について
<課題>公共交通機関でのアクセスが悪い、車がないと行けない
<解決策>交通手段を増やす、無料化、駅近くに図書館をつくる、駅から図書館までバス一本で行けるようになる
ルノー(自動運転)の導入

視点
利用の
しやすさ



3班 五感を満たす図書館

- 五感に着目して検討
【味覚】お洒落カフェ、親子カフェ、BOOKBAR、SELECT KITCHENCAR、地域の特産品コーナー
【聴覚】館内BGM、床の材質、音楽生向けフロア
【視覚】明るい空間(照明など)、図書館をライトアップ プロジェクター上映会
【嗅覚】集客効果・滞在時間の延長、おもてなし効果・ブランディング効果
【触覚】フレルノート、ハンズオン展示
- そのほか五感を満たすサポートとして設備・イベント・サービスについて検討
設備: コンセント・フリーwifiの設置、くつろげる空間、バリアフリー設計など
イベント: コンテスト、子供向けのイベント、本の交流会など
サービス: 本の宅配サービス、本の貸し出し回数による特典、コンビニでの返却など

視点
心地よさ



6班 TAMOKU's WAKUWAKU HOUSE

- コンセプトの設定: TAMOKU's WAKUWAKU HOUSE
「TAMOKU's」小松の産業を活かした**多目的な**空間・・・小松というローマ字をアナグラムに
「WAKUWAKU」**わくわく**する未来型図書館
「HOUSE」いろんな世代の人が**家**にいるようにくつろげる空間に
- 小松の特産品を活用したコンセプトカフェ(市民アンケートの声に着目)
・カフェにある料理から絵本に興味を持たせることが期待できる
・小松の特産品を使って地産地消を促す
- 小松の石を使った足湯
小松の石文化の魅力発信、くつろげる・リラックスできる空間

視点
くつろぎ
やすさ



イメージキャラクター
タモクくん